

事務事業名	資料整備事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	資料整備事業費				会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	08
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	収蔵資料の内、劣化の激しい鉄器・木器・土製品を中心に保存処理を行い、保存処理後は考古館常設展示において公開する。 収蔵資料の写真撮影を行い、台帳化を進める。 市民学習用の図書資料の購入。													
現状と背景 (どうして)	収蔵資料の内、鉄器や木器・土製品は劣化が激しいため、貴重な資料から保存処理・修復を行う必要がある。 保存処理が必要な収蔵資料は発掘調査により増加しているが、保存処理・写真撮影を行っていない。													
目的	受益者 (誰のために)	施設利用者												
	対象 (直接働きかける)	寄贈・購入された図書 保存処理・修理が必要な収蔵資料												
手段・方法 (どうやって)	意 図 (どんな状態にしたいか)	収蔵資料・図書資料で台帳化が行われていないものを台帳化する。 保存処理・修復を実施し展示できる状態にする。 展示公開の実施および貸出要望に応えられるようにする。												
	手 段	図書資料は受領次第台帳化する。 収蔵資料から学術的に重要で、劣化の激しいものを選択し台帳化を行い優先順位を決定する。 優先順位に基づいて保存処理を実施する。 保存処理したものを順次公開する。												
評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	新規寄贈図書・購入図書資料の台帳	台帳化率	%	購入・寄贈図書資料/購入・寄贈図書台帳化率	100							
		2	保存処理された資料	遺物保存処理率	%	保存処理実施点数/保存処理必要点数	100							
	3													
	変更履歴													
	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
1	新規寄贈図書・購入図書資料の台帳化	台帳化率	%	新規図書台帳記入数/新規図書数	100									
2	保存処理された資料の公開	公開率	%	保存処理済資料展示回数/保存処理済資料数	100									
変更履歴														

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	1,020,523	858,122	648,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
		その他特定財源	円						
	一般財源	円	1,020,523	858,122	648,000				
	活 動 指 標	台帳化率	目標	%	100	100	100		
			実績	%	100	100			
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-	
		遺物保存処理率	目標	%	100	100	100		
			実績	%	10	15			
		達成率	%	10.00	15.00	-	-	-	
	-	目標	-						
		実績	-						
達成率	%	-	-	-	-	-			
成 果 指 標	台帳化率	目標	%	100	100	100			
		実績	%	100	100				
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	-		
	公開率	目標	%	100	100	100			
		実績	%	50	100				
	達成率	%	50.00	100.00	-	-	-		
備 考									

事務事業名		資料整備事務		事業期間	2000 ~	年度		係内番号	02
担当部署		生涯学習部		文化財課		考古館係 (尖石縄文考古館)		連絡先	76-2270
事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度			
	（成果） 変果 動指 要標 因分 （分析）	修復実施時期が年度後半になったことと修復作業量が多かったため、修復資料の展示率が目標値の半分になった。	修復実施時期は年度後半になったものの、年度内に展示することができた。						
	（価値） 総合評価	予定通りの台帳化により、入館者にも最新図書の閲覧ができるようになった。資料修復により展示したくてもできなかったものが展示でき、多くの入館者に「あの資料が見れてよかった」との声が聴かれた。	予定通りの台帳化により、入館者も最新図書の閲覧ができるようになった。また展示に資するべき資料の修復ができ、展示資料の充実につながった。						
	課題	修復実施時期が年度後半になったことと修復作業量が多かったため、修復資料の展示率が目標値の半分になった。年度前半からの計画的修復作業により展示率の向上に努めたい。	修復実施時期がまた年度後半になった。計画的に修復を進め、年度内の展示を目指し、展示する時に解説イベントなど開催するようにしていきたい。						
改革	成果	現状維持	現状維持						
	コスト	縮小	現状維持						
改善の方向性	（内容） 改善の方向性	多くの来館者から「国宝を目当てに来たが、それ以外の資料も見ごたえがあった」との声が聴かれるため、今後も展示に資すると思われる資料の修復を継続し、展示できるようにしていきたいが、委託する業務内容の精査等によりコスト削減を目指していく。	多くの来館者から「国宝を目当てに来たが、それ以外の資料も見ごたえがあった」との声が聴かれるため、今後も展示に資すると思われる資料の修復を継続し、展示できるようにしていきたい。ただし、展示に資する資料の優先順位付け、また各資料の修復の必要性を再度精査し、コスト削減につなげる。						
	（策） 策び容								
作成担当者		守矢昌文	山科 哲						
最終評価責任者		両角勝元	五味健志						
最終評価年月日		元. 5.17	2020年7月3日						

事務事業名	特別展事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実		

予算事業名	特別展事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	11
-------	--------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 常設展示では紹介しきれない資料やテーマの展示によって、茅野市域の縄文文化への関心と理解を高める機会として開催する。

現状と背景
 (どうして)
 国宝「土偶」を目当てに訪れる来館者から「国宝以外の土器もすごい」との声は多く聞かれる。常設展示資料以上に茅野市域の縄文文化の卓越ぶりを示す資料が収蔵庫にある。また、常設展示ではスペースの都合で大きく扱うことのできないテーマや最新研究成果に関連したテーマにより茅野市域の縄文文化の特質を伝えることができる。そうした資料やテーマによる特別展覧会を当館のハイシーズンの夏期～秋期にかけて開催することで、茅野市の縄文文化の魅力強くアピールして集客につなげることを目的とする。

目的

受益者 (誰のために)	縄文文化に関心の高い茅野市民及び市外在住者
対象 (直接働きかける)	縄文文化に関心の高い茅野市民及び市外在住者
意図 (どんな状態にしたいか)	特別展覧会により会期中の入館者数を増やす。 国宝「土偶」以外の茅野市の縄文遺産について知ってもらい、市域の縄文文化への関心、理解を高める。

手段・方法
 (どうやって)
 年度2回、特別展示室を会場とする展覧会の開催。また、必要に応じて随時、ロビー展示も開催。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	特別展示室を使用した展覧会の開催	開催回数	回	特別展示室を使用した展覧会の開催
	2					
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	展覧会開催中の入館者数の増加	会期中入館者数の前年度比	%	会期中の当該年度入館者数 / 前年度同期間の入館者数
	2					
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	118,593	94,548	126,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	118,593	94,548	126,000		
活動指標	開催回数	目標	回	2	2		
		実績	回	2	1		
		達成率	%	100.00	50.00	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	会期中入館者数の前年度比	目標	%	110	110	75	
		実績	%	98	87		
		達成率	%	89.45	79.09	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
備考							

事務事業名	特別展事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	03
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係 (尖石縄文考古館)	連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	変果動指要標因分	当該年度の特別展会期中入館者数=30464人、前年度同期間中入館者数=30960人。前年度の期間中には八ヶ岳JOMONライフフェスティバルに伴う無料開館日が19日間あり、その期間の差が約1200人となっており、その差によって前年度比98%の入館者数となった。	当該年度の特別展会期中の入館者数=23785人、前年度同期間中=27342人で約3600人もの差がある。月別で見ると7月(13日~31日)約200人減、8月約600人減、9月約1200人減、10月で約1700人減、となっている。台風と前年度の「JOMON」展によるブームの沈静化の影響による。		
総合評価	成果	通常展示していない資料の展覧会、長野県宝指定資料の展覧会を開催した。後者は県宝指定の報道と展覧会開催の報道があり、来館者も多かった。前者も前年度の発掘調査出土資料を含む展示で速報性もあり、SNSで話題となった。	平成29年度に調査した辻屋遺跡の速報展を開催した。日本遺産に関連したロビー展を開催予定であったが、庶務担当者の長期入院により開催できなかった。			
	課題	広報の強化と関連するイベント等を開催することで、期間中の中入館者数を増やす試みをすべきである。	関連するイベント(展示解説やミニ講座など)を開催して期間中の中入館者数を増やす試みをもっと強化すべきである。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性	関連イベントを会期中に複数回実施することが、より関心と入館者数を高めると思われるので、そのままの状態でできるイベントを考えていく。広報の強化については、縄文文化に関心のある層が手にするフリーペーパーの「縄文ZINE」への広告掲載がもっとも効果があると思われる。パネル印刷や消耗品費を抑えつつ、広告掲載を検討したい。	フリーペーパーの「縄文ZINE」に広告を掲載し、SNSで拡散もされた。入館者数にどの程度反映されているか測定できていないので、「縄文ZINE」持参入館の方には何か特典を付けるなどすれば効果を測定できると思われる。また会期中にコストのかからない関連イベントを重点的に複数回実施することで、より関心を高めていく。			
	改善の方向性					
策	策					
作成担当者	山科 哲	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	縄文教室事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱ID	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	縄文教室事業費				会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	05
事務事業の概要	バラエティに富む講座を通じて、縄文文化や縄文時代のもので学びの機会を提供する。													
現状と背景	茅野市の縄文遺産が全国的に見ても突出した存在であり、その魅力を伝えることで、市民の地元に対する誇りや愛着を抱くきっかけとなりうる。また、市外在住者にも茅野市の持つ魅力のひとつをアピールすることができる。それを効果的に行うには展示だけでなく、多角的に縄文文化を学ぶことができる講座も必要と考える。加えて、縄文文化を学ぶ機会を求める声は、学校教育現場でも生涯学習の場においても高まっている現状がある。こうした声に応えることで上記した目的を達成する一手段となる。													
目的	受益者	縄文文化を学ぼうと思っている茅野市民及び市外在住者												
	対象	縄文文化を学ぼうと思っている茅野市民及び市外在住者												
手段・方法	意 図	もの作りを通して縄文文化を学ぶ体験講座と研究者を講師とする講座によって、茅野市域の縄文文化への関心を高めていき、参加者がSNS等での発信を含めて茅野市域の縄文文化の魅力の語り手となる。なお、体験型講座の講師は市民で構成される考古館ボランティア・サークルに依頼し、講座が市民レベルでの交流の場になるようにしていく。												
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ●縄文時代のもので本格的に学ぶことのできる体験講座 ●縄文時代のものでのエッセンスを学んだりアクセサリやインテリア作りの体験講座 ●最先端の縄文文化研究や著名な遺跡について学ぶことのできる講座 ●茅野市周辺で課外活動を実施している学校を対象とする体験学習の受け入れ 												
評価 指標 の 作 成	活動 指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	体験型講座「縄文教室」	縄文教室開催回数	回	体験型講座の開催実数	10							
		2	講演会「縄文ゼミナール」	ゼミナール開催回数	回	講演会の開催実数	5							
	成果 指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	体験型講座「縄文教室」申込の増加	定員に対する申込率	%	申込数/定員×100	80							
		2	講演会「縄文ゼミナール」参加者の増加	定員に対する参加率	%	参加数/定員×100	80							

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	406,168	280,066	388,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	58,200	69,000	120,000			
	一般財源	円	347,968	211,066	268,000			
	活動 指標	縄文教室開催回数	目標	10	10	10		
			実績	10	9			
		達成率	%	100.00	90.00	-	-	-
		ゼミナール開催回数	目標	6	6	4		
			実績	7	5			
		達成率	%	116.67	83.33	-	-	-
団体体験受入の数	目標	20	20	20				
	実績	23	22					
達成率	%	115.00	110.00	-	-	-		
成果 指標	定員に対する申込率	目標	70	75	75			
		実績	66	76				
	達成率	%	94.04	101.33	-	-	-	
	定員に対する参加率	目標	80	80	80			
実績		70	71					
達成率	%	87.50	88.75	-	-	-		

事務事業名	縄文教室事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	04
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係 (尖石縄文考古館)	連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成 変果 動指 要標 因分 ～析		縄文教室の申込率が目標値に届かなかった。台風等の天候の影響もあるほか、講座が2日にわたって参加しにくいとの声もあった。過年度実績に基づく縄文ゼミナールの参加者平均数はほぼ目標値と同じとなった。	縄文ゼミナールの参加者の平均数があまり増加せず、受講者がリピーター化していると思われる。縄文教室については、参加者がリピーター化しているわけではないが、前年度と同程度の申込率であった。		
価値	総合評価	縄文教室の参加者は、率こそ目標値に到達していないが、アンケートによると参加者満足度が非常に高い。縄文ゼミナールは、シリーズのように利用して学びリピーターが多く、縄文文化に関心のある利用者にとって効果が高い。	縄文教室について、申込率は目標値とほぼ同じであった。加えて、参加者の満足度もおおむね高かった。これに対して、縄文ゼミナールの参加率は前年度と変わっていない。			
	課題	縄文教室の申込率をより高めるため、日数が少なくても満足する講座の開発や、人気のある講座の複数回実施などを検討すべきである。	縄文教室では講座内容で申込率に差が激しい。人気の講座を複数回開催することも考える必要がある。縄文ゼミナールは、安定しているとも言えるが伸び悩んでいるとも言えるので、対談など内容にメリハリをつけていくことも検討すべきである。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	関心の高い講座内容を吟味しなおし、重点的に実施していく方がよいと思われる(例えば土偶製作の複数回実施)。また、他館では提供していない内容の講座も多いため、受講料を材料費に応じて値上げすることも検討すべきである。	講座内容について、引き続き再吟味をし、計画に反映していく。受講料については、①各講座の材料費実費の算出、②考古館使用料(=観覧料)、③配布資料印刷代をベースに、現在講座内容にかかわらず1000円としているが、講座に応じて適切な受講料を検討する。			
策	策	山科 哲	山科 哲			
最終評価	最終評価	両角勝元	五味健志			
最終評価年月日	最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日			

事務事業名	尖石縄文文化賞事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	尖石縄文文化賞事業費				会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	06
事務事業の概要	特別史跡尖石遺跡の発掘と研究に情熱を注ぎ、縄文集落研究の先駆けとなった名譽市民第1号の宮坂英弐氏の業績を顕彰し、縄文文化研究や普及に功績のあった個人または団体を表彰する。これにより茅野市域の縄文文化遺産に対する関心や理解、そして保存と活用の重要性への理解を高める。													
現状と背景	縄文時代の研究において、尖石遺跡は縄文集落研究の先鞭をつけ、そして大きな成果を残した遺跡として著名で、縄文時代の研究者にとっては本賞はすでに名譽ある賞として広く知られている。縄文文化研究に広く認められた功績を持つ研究者を表彰することで、茅野市域の縄文文化研究の進展が期待できるだけでなく、受賞者を通じて市域の縄文文化の広範なアピールにつながることも期待できる。													
目的	受益者	縄文文化研究者、縄文文化に関心のある茅野市民												
	対象	縄文文化研究者、縄文文化に関心のある茅野市民												
手段・方法	意 図	縄文文化研究に顕著な功績のあった研究者の受賞を通じて、研究者には縄文文化全体はもちろん、茅野市域の縄文文化研究にも取り組んでもらう機会にし、市民には茅野市域の縄文文化の重要性の再認識、市外在住者には茅野市域の縄文文化の重要性と魅力をアピールする糸口にして茅野市への来訪につなげ、来館者の増加を図る。												
	方法	<ul style="list-style-type: none"> ●全国の著名な考古学研究者及び大学の考古学研究室・博物館・埋蔵文化財調査センター等への候補者推薦の依頼、考古学系図書への候補者募集告知の掲載 ●授賞式を縄文まつり初日に実施（入館無料）、尖石縄文検定合格者、考古館のボランティア、サークルにも授賞式の開催を通知。市報、報道等による告知。 ●受賞者には次年度に「縄文文化大学講座」で自身の研究を講演 												
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
	1	候補者推薦依頼文書、候補者募集案内の発送	依頼文書発送数	通	考古学関係者への依頼文書発送数+関係機関への候補者募集案内発送数	230								
2	縄文検定合格者等への授賞式開催の通知	通知発送数	通	通知発送数	200									
3														
変更履歴														
1	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
2	縄文文化研究に実績のある候補者の応募数の増加	候補者数	件	応募数+推薦数	13									
3	授賞式及び前年度受賞者を講師とする縄文文化大学講座の参加者の増加	参加者数	人	授賞式参加者数+縄文文化大学講座参加者数	120									
変更履歴														

実 施 状 況	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	事業費等(a)	円	1,338,056	1,324,456	1,323,000		
財 源 内 訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	100,000	100,000	100,000		
	一般財源	円	1,238,056	1,224,456	1,223,000		
活 動 指 標	依頼文書発送数	目標	通	230	230	230	
		実績		257	257		
		達成率	%	111.74	111.74	-	-
	通知発送数	目標	通	200	200	200	
		実績		181	187		
		達成率	%	90.50	93.50	-	-
-	目標	-					
	実績						
	達成率	%	-	-	-	-	
成 果 指 標	候補者数	目標	件	13	14	12	
		実績		14	11		
		達成率	%	107.69	78.57	-	-
	参加者数	目標	人	120	123	120	
		実績		123	100		
		達成率	%	102.50	81.30	-	-
備 考							

事務事業名	尖石縄文文化賞事務		事業期間	2000	～	年度	係内番号	06
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係(尖石縄文考古館)			連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	～成果～ ～動指～ ～要標～ ～因分～ ～析～		尖石縄文文化賞は縄文研究者にとって名誉ある賞との声が強くなり、近年の受賞者も以前より若い受賞者が増え、応募数が目標値より増えた。 また、縄文文化への関心の高まりが、授賞式と縄文文化大学講座の参加者数目標値を上回った要因と考えられる。	募集告知のタイミングが前年度よりも遅れたため、応募者数がやや下回った。授賞式と前年度受賞者による縄文文化大学講座の参加者数は、台風による影響で当初予定から延期して分散開催した結果、目標値を下回った。		
価値	総合評価	応募者数、授賞式・大学講座のいずれも目標値を上回ったのは、研究者と市民双方の関心の高さがうかがえる。また、受賞者は特別史跡加曽利貝塚の研究を進めた西野氏だったことで、特別史跡への関心もより高まった。	応募者数、授賞式・大学講座のいずれも目標値を下回った。本賞への関心の低下ではなく、運営スケジュールがタイトなことに加え、庶務担当者の長期離脱(3か月間の入院)により本事業の業務に大きな支障が出た結果である。			
	課題	効果的な推薦と応募を考慮し、依頼文や募集案内の発送先を見直す必要がある。	候補者の増加に結び付くよう、推薦依頼する専門家の見直し、応募期間をもう少し長くできるように運営するようにしていく。			
改革	翌々年度方向性	成果 現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	推薦依頼者を推薦実績に応じて吟味し、同時に意欲的な中堅研究者に推薦依頼をしていくことで、推薦実績を高めることができると思われる。 また、考古館のウェブサイトで情報入手する応募者が多いので、関係機関への募集案内の発送先を研究機関に限定するなど、発送にかかるコストを低減させていく。	ウェブサイトでの募集期間と推薦依頼者への推薦依頼を早めて応募しやすいようにする。最終的には募集案内の研究機関への発送を取りやめ、事務作業とコストを低減する。			
策	策					
作成担当者	山科 哲	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	青少年自然の森管理運営事務	事業期間	1992 ~	年度	係内番号	07
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える		
			実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0404	青少年自然の森の充実		

予算事業名	青少年自然の森管理運営費	会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	15
-------	--------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
青少年自然の森は、青少年が八ヶ岳山麓の豊かな自然の中での集団生活を通じ、「生きる力と知恵」を育むためのさまざまな野外活動をおこなう施設である。当事業は、来場者が施設を安全かつ快適に利用できるよう維持管理するための事業である。

現状と背景
(どうして)
健全で人間性豊かな青少年の育成が求められている。

目的
対象
受益者 (誰のために) 来場者
対象 (直接働きかける) 施設
意図 (どんな状態にしたいか) 来場者が安全かつ快適に利用できる環境を整える。

手段・方法
(どうやって)
施設とその周辺の日常点検と、消防機器や電気設備等の定期点検をおこない、改善すべき箇所の早期把握に努め、計画的に改修等を実施する。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	施設内外の巡回点検	実施回数	%	実施回数/開場日
	変更履歴					
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	事故・苦情件数の削減	事故・苦情抑制率	%	1-事故・苦情件数/今年度来館者数	100
	2	来場者数の増加	増加率	%	前年度来場者数/今年度来場者数	119
	変更履歴					

実況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	2,866,208	4,635,501	7,624,000
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	2,223,768	2,128,898	2,892,000		
	一般財源	円	642,440	2,506,603	4,732,000		
活動指標	実施回数	目標	%	100	100	100	
		実績	%	100	100		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成果指標	事故・苦情抑制率	目標	%	100	100	100	
		実績	%	100	100		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-
	増加率	目標	%	119	120	120	
		実績	%	75	95		
		達成率	%	63.03	79.17	-	-
備考							

事務事業名	青少年自然の森管理運営事務	事業期間	1992 ~	年度	係内番号	07
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係 (尖石縄文考古館)	連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	～成	台風による停電のため、利用を停止した日が6日あり、4団体が利用中止、2団体が宿泊を日帰りに変更した結果で利用者数が減少した。また、H29年度に利用していた学校のうち4校(355名)がH30年度は利用しておらず、利用者数が減少した。	ほぼ前年度並みの利用者数だったが、減少分は台風の影響により10月中のキャンセル、3月中の新型コロナウイルスの影響と思われる。		
価値	成果	都会や日常の生活では経験しにくい自然体験を格安でできるため、利用者の満足度は高く、リピーターも多い。	都会や日常の生活では経験しにくい自然体験を格安でできるため、利用者の満足度は高く、リピーターも多い。			
	総合評価	そもそも子どもの数が減っているなかで、利用者が減っているのではないかとと思われる。これに加えて、学校の利用が減っている要因として、総合的学習の時間の使い方に変化が生じている可能性が考えられる。	学校利用の増加を目指すことと、立地環境を生かした体験講座の開発と実施により、利用者数を増やすようにする。			
課題	成果	拡充	現状維持			
	コスト	拡大	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	子どもの数の低下に伴う利用者数の低下に対して、体験プログラムのメニューの多様化を図り、利用者増を目指すべきである。また、施設の老朽化が進行しているため、影響が小さい範囲で使用料の増額を検討していく。 このほか、青少年自然の森敷地内の樹木について、台風等で倒れ施設や電線への被害が出ないように、速やかに伐採整備する必要がある。	扉やトイレの不調、暖房機の故障、宿泊棟の軒先の傷み、ボイラーの故障による浴室の利用停止など、老朽化が進行している。公共施設再編計画で、指定管理も選択肢の一つとして議論をしているが、それらの修繕を済ませない限り、指定管理はできない現状である。計画的な修繕を進めたい。 あわせて、施設の立地や市域における自然環境を活用した体験プログラムを検討していき、魅力ある宿泊体験施設としていく必要がある。			
策	策	作成担当者	山科 哲	山科 哲		
		最終評価責任者	両角勝元	五味健志		
		最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日		

事務事業名	尖石ボランティア事業	事業期間	～	年度	係内番号	08
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用		
			基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業		
			実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実		

予算事業名	尖石ボランティア事業費	会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	07
-------	-------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 尖石縄文考古館で市民参加による博物館活動の場とするための事業。尖石縄文考古館の事業をサポートする尖石ボランティアと、考古館を活動の場として自主的な活動を行う尖石サークルの2種類の活動を行っている。尖石ボランティアは史跡公園の環境整備、考古館でのイベント開催、講座講師を無償で勤めている。尖石サークルは、会員を増加させながら活発に活動している。サークル会員も、尖石縄文考古館の講座講師を無償で勤めている。考古館職員とボランティア会員、サークル会員の意見交換のために、尖石サロンと題して話し合いの場を設けてある。

現状と背景
 (どうして)
 尖石縄文考古館の運営に市民感覚をいかにするため。茅野市の財産である文化財を市民と共に守り、その価値を知ってもらうため。

目的
 受益者 (誰のために)
 市民、考古館観覧者、史跡公園利用者
 対象 (直接働きかける)
 同上

意図
 (どんな状態にしたいか)
 市民総学芸員化とともに、市民が講師となり、考古館や尖石史跡公園、茅野市に残る縄文文化のすばらしさを伝える発信者となってもらおう。市民参加による博物館・史跡公園づくりを推進し、博物館や史跡公園づくりを茅野市のまちづくりの活動として認知されるようにする。

手段・方法
 (どうやって)
 ボランティア活動に学習の要素を加え、茅野市の自然、文化を楽しみながら学ぶことのできる活動の実施。尖石縄文検定合格者に、学習・解説・史跡整備等の実施を通知し、活動の充実と後継者を育成する。

評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
		1	ボランティア活動の実施	実施数	%	実施数/実施予定数
2	縄文検定合格者のボランティア活動への参加呼びかけ通知	通知数	%	縄文検定合格者数/通知数	100	
3						
変更履歴						
成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	ボランティア会員数の増加	会員増加率	%	今年度会員数/前年度会員数	120
2	サークル活動の活性化	会員増加率	%	今年度サークル会員数/前年度サークル会員数	120	
変更履歴						

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	財源内訳	事業費等(a)	円	10,355	10,342	0	
国庫支出金		円					
県支出金		円					
地方債		円					
その他特定財源		円					
活動指標	実施数	目標	100	100	100		
		実績	88	81			
		達成率	88.00	81.00	-	-	
	通知数	目標	100	100	100		
		実績	100	91			
		達成率	100.00	91.00	-	-	
	-	目標	-				
		実績					
		達成率	-	-	-	-	
	成果指標	会員増加率	目標	120	120	120	
実績			94	129			
達成率			78.33	107.50	-	-	
会員増加率		目標	120	120	120		
		実績	98	103			
		達成率	81.67	85.83	-	-	
備考							

事務事業名	尖石ボランティア事業		事業期間	～	年度	係内番号	08
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）			連絡先	76-2270

事後評価	項目	2018年度（H30）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （変果） （動指） （要標） （因分） （析）		会員増加率については、継続して会員になる方々の高齢化が影響して目標増加率を下回った。	ボランティア、サークルの会員はともに増加した。ただし、高齢化は続いている。		
価値（CHECK）	総合評価	ボランティア作業はほぼ予定通りで、館の取り組みを共有しながら作業ができた。サークルについては、増加率が前年並みであるが、会員数の少ないサークルに新入会員が増え、活動が安定して館のイベントにも協力していただいた。	ボランティア作業は、台風や天候もあり、館の職員のみで実施した回もあったが、参加を募った回には、前年度よりも参加者はやや減ったとはいえ、多くのボランティアに参加いただいた。少人数のサークルには前年度に続き新規会員があった。			
	課題	会員の高齢化が進んでいるので、安定した活動を行うためには、新規会員の確保が必要である。	高齢化の進む状況が大きな問題であり、ボランティア、サークルともに、会員からこの問題点について検討を求められている。			
改革	成果	現状維持	休廃止			
	コスト	縮小	皆減			
改善の方向性（ACT）	改善の方向性の内容の策び容	サークル会員のベースとなる博物館学習会員の登録者は増加傾向にあるので、サークルへの加入を働きかけていくことで、会員増につなげていく。ボランティア会員についても同様に、博物館学習会員の登録者、サークル会員に働きかけて会員増につなげていく。案内通知を各作業回ごとに郵送していたが、メールへの切り替えの促進、年度当初に活動予定日を通知し、「来れる日に来てください」とするなどしてコスト低減を図っていく。	現状では、ボランティアを育成するプログラムの構築や実施をできる人員体制にない一方で、史跡公園整備事業や縄文教室事業への多大な協力をボランティアから得ている状況があり、2019年度の棚卸の検討により、本事業はそれらの事務事業に組み込んでいくこととなった。			
作成担当者	守矢昌文	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	縄文を識る推進事業	事業期間	2016 ~	年度	係内番号	09
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0000	複数の柱にまたがる事業	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名		縄文を識る推進事業費			会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	10
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		「縄文人の生き方を識り、現代社会の課題解決につなげる」とする、縄文プロジェクト実行市民会議「縄文」を識る部会の方針に基づき、縄文に関するさまざまな事業を子どもから大人を対象に実施し、茅野市の縄文文化の価値や重要性を知ること、さらなる市民総学芸員化を図る。												
現状と背景 (どうして)		茅野市には、2つの国宝「土偶」や国宝級の価値がある特別史跡「尖石石器時代遺跡」をはじめ、優れた縄文遺産があるが、その存在と重要性が市民に十分浸透していない。そのため、縄文文化をいかした特色あるまちづくり・人づくりを展開することができていない。												
目的	受益者 (誰のために)	市民												
	対象 (直接働きかける)	市民												
	意 図 (どんな状態にしたいか)	茅野市の縄文文化の価値や重要性を正しく理解し、「宝」として説明できる市民を育成する。												
手段・方法 (どうやって)	『茅野市縄文かるた』を使った第2回茅野市縄文かるた大会を開催する。 市内保育園・幼稚園での『茅野市縄文かるた』の対面販売を実施する。 『茅野市縄文ガイドブック』を使った縄文遺跡めぐりを実施する。 縄文風的小屋づくり体験会を実施する。													
	行政が活動することで作り出すもの													
評価 指標 の 作 成	活動 指標	1	縄文かるた大会	実施回数	回	1回	1							
		2	縄文遺跡めぐり	実施回数	回	1回	1							
		3	縄文風小屋づくり体験会	実施回数	回	9回	9							
	変更履歴													
成果 指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		最終目標値							
	1	入館者数の増加	年間入館者数	人	年間入館者数 計画策定時53,824人		70,000							
	2	縄文検定合格者数の増加	合格者数	人	合格者数 計画策定時2,122人		5,000							
	変更履歴													

実 施 状 況 （ D O ） 考	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	928,820	1,038,454	1,030,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	活動 指標	実施回数	目標	回	1	1	1		
			実績	回	1	1	1		
		達成率	%	100.00	100.00	-	-	-	
		実施回数	目標	回	1	1	1		
			実績	回	1	1	1		
	達成率	%	100.00	100.00	-	-	-		
	実施回数	目標	回	9	9	5			
		実績	回	9	0				
	達成率	%	100.00	0.00	-	-	-		
	成 果 指 標	年間入館者数	目標	人	70,000	70,000	65,000		
実績			人	56,953	54,434				
達成率		%	81.36	77.76	-	-	-		
合格者数		目標	人	5,000	5,000	5,000			
	実績	人	2,838	3,085					
達成率	%	56.76	61.70	-	-	-			
備 考									

事務事業名	縄文を識る推進事業		事業期間	2016 ~	年度	係内番号	09
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係 (尖石縄文考古館)	連絡先		76-2270	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	～ 析	入館者数については、目標値に届かず前年度実績にも及ばなかったが、八ヶ岳JOMONライフフェス期間中無料入館を別にすれば増加傾向である。縄文検定合格者数は、小学校の受検が堅調であるが、一般受検者数が伸び悩んでいる。	入館者数は台風等の影響により減となった。縄文検定の受検者数が減少傾向にあることがよりはっきりした。小屋作りについては、茅葺職人の要望を踏まえ内容を吟味する必要性が生じ、2019年度は開催を見送った。		
価値	成果	かるた大会、遺跡めぐりいずれも好評であり、茅野市の縄文遺産の価値を市民に伝えることができている。縄文検定合格者のなかには、独自に遺跡めぐりの案内をしている方がいる。	かるた大会も遺跡めぐりも人気は堅持しており、これらを通じて茅野市の縄文遺産を茅野市民が「識る」ことに貢献できていると思われる。			
	総合評価	課題	縄文検定の一般受検者数の伸び悩みが大きな課題である。実施して満9年になるが、縄文への関心の強い層の受検は一段落したように見える。	縄文検定の受検者数がほぼ打ち止め状態である。縄文文化に関心のある層の受検は一段落したと思われる。		
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性	改善の方向性	改善の方向性			
	内容	改善の方向性	改善の方向性			
策	策	策	策			
作成担当者	山科 哲	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	関係団体支援等事務	事業期間	2015 ~	年度	係内番号	10
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0304	歴史、文化遺産の保護と活用	実行計画の 柱における 指標との 関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0000	複数の柱にまたがる事業								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実								
		計画CD	計画名称		施策の 柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	関係団体支援等事業				会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	09
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	国指定史跡、考古館、博物館等を有する県内外の市町村や団体と連携し、縄文時代の遺跡と遺物の保護と活用に資する情報の収集と共有を図るとともに、縄文文化の価値と重要性を市民を始め全国の人々に発信するため、各市町村と各施設を束ねる関係団体の運営に係る費用の一部を負担する。 縄文まつりを市民主導の実行委員会で開催し、縄文文化の縄文文化の価値や重要性を発信する。													
現状と背景 (どうして)	縄文文化の価値と重要性が、市民及び全国の人々に十分浸透していない。													
目 的	受益者 (誰のために)	市民、全国の人												
	対象 (直接働きかける)	市民、全国の人、関係団体												
	意 図 (どんな状態にしたいか)	縄文文化の価値や重要性を知ってもらい、来館者と縄文まつり参加者の増加につなげる。												
手 段 ・ 方 法 (どうやって)	関係団体主催の会議へ出席し、また、市民等に縄文まつりへの参加を呼びかけ、縄文文化の価値と重要性を広く発信する。													
	評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
1			全史協、県史協等の関係団体主催の会議への出席	出席率	%	会議への出席数/会議の開催数 (×100)				100				
2			縄文まつり案内の配布数	配布率	%	配布数 /市内幼稚・保育園、小・中学校の家庭数 (×100)				100				
3														
変更履歴														
成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
	1	入館者数の増加	年間入館者数	人	計画策定時53,824人				70,000					
	2	縄文まつりの入場者数	入場者数	人	計画策定時3,800人				4,000					
変更履歴														

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	3,598,297	3,581,000	81,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	その他特定財源	円							
	一般財源	円	3,598,297	3,581,000	81,000				
	活 動 指 標	出席率	目標	%	100	100	100		
			実績	%	100	50			
			達成率	%	100.00	50.00	-	-	-
		配布率	目標	%	100	100	100		
			実績	%	100	100			
			達成率	%	100.00	100.00	-	-	-
	-	目標	-						
実績		-							
達成率		%	-	-	-	-	-		
成 果 指 標	年間入館者数	目標	人	70,000	70,000	65,000			
		実績	人	56,953	54,434				
		達成率	%	81.36	77.76	-	-	-	
	入場者数	目標	人	4,000	4,000	4,000			
		実績	人	4,240	3,411				
		達成率	%	106.00	85.28	-	-	-	
備 考									

事務事業名	関係団体支援等事務	事業期間	2015 ~	年度	係内番号	10
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係 (尖石縄文考古館)	連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	成	入館者数の前年度実績は八ヶ岳JOMONライフフェスティバル期間中無料入館のため入館者数が増加したと考えられる。H28→H29の約6000人の増加に対し、H29→H30は約3000人の減少で、無料入館の影響が大きいものの、増加傾向である。	入館者数が前年度比で2500人減である。台風等の影響があったと思われるが、4月～7月および11月～2月の入館者数は前年度比よりプラスである。ハイシーズンの8月～10月の入館者数減が全体に影響した。		
総合評価	成果	縄文まつりの案内配布を予定通り実施できたこともあり、入場者数が目標値を上回った。	台風等の影響で入館者数は前年度よりも減少した。縄文まつりは案内配布を予定通り進めたものの、台風19号の直撃により、前年度より入場者数が減少、目標値も下回った。			
	課題	H29年度の実績を踏まえ、無料開館期間が一定期間あれば、多くの入館者数が期待できるが、それができなかったために入館者数が伸びなかった。	入館者数、縄文まつり入場者数をともに増加させるための方法を考える必要がある。なお、交通機関の問題は利用者に指摘されたことがある。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性	成果	関係団体の会議等への出席により、史跡整備や博物館業務の国・県・各市町村の方向性を確認でき、同時に最新かつ有効な整備の方法等の情報交換ができる。また、縄文まつりの来場者も市民はもちろん、市外、県外からも増えており、茅野市の縄文文化の重要性を知ってもらう大きな機会となっている。今後は、縄文まつりの告知を低コストでより効果的な方法や、イベント内容も低コストで楽しめるものを検討していく。	関係団体の会議等への出席により、史跡整備や博物館業務の国・県・各市町村の方向性を確認でき、同時に最新かつ有効な整備の方法等の情報交換ができる。また、縄文まつりは、考古館の無料開館もあり、茅野市の縄文文化の重要性を知ってもらう大きな機会となっている。今後は、縄文まつりのイベント内容にも低コストで楽しめるものを検討するよう実行委員と協議する。			
	改善の内容					
策	策					
作成担当者	守矢昌文	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	考古館運営事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	11
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0000	複数の柱にまたがる事業	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名		考古館運営費			会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	02
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)		尖石縄文考古館は、特別史跡「尖石石器時代遺跡」の保存・管理、2つの国宝「土偶」をはじめ縄文時代の考古資料の収集・収蔵、調査・研究、展示、及び子どもから大人まで楽しめる体験学習等の教育普及活動をおこなう施設である。当事業は、こうした施設を運営するための事業である。												
現状と背景 (どうして)		茅野市の「宝」である縄文遺産をまもり、いかし、後世に伝えると共に、縄文遺産を意識したまちづくりを進め、観光や地域の活性化を図る必要がある。												
目的	受益者 (誰のために)	来館者												
	対象 (直接働きかける)	施設												
	意図 (どんな状態にしたいか)	縄文文化の価値や魅力を発信し、来館者の増加を図る。												
手段・方法 (どうやって)	考古館と史跡公園で開催するイベント情報を市報やマスコミ等を通じて発信する。展示に関わる出版物と縄文関連商品の販売、土器・土偶等の体験学習を実施する。													
	行政が活動することで作り出すもの													
評価 指標 の 作成	活動 指標	1	報道関係者等への情報発信	発信件数	回	月3件×12か月	36							
		2												
		3												
	変更履歴													
成果 指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値						
	1	入館者数の増加	年間入館者数	%	計画策定時53,824人			70,000						
	2													
変更履歴														

実 施 状 況 （ D O ） 考	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	財 源 内 訳	事業費等(a)	円	15,638,269	18,732,693	16,078,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
		その他特定財源	円	933,290	311,646	1,122,000			
		一般財源	円	14,704,979	18,421,047	14,956,000			
	活動 指標	発信件数	目標	回	36	60	60		
			実績		59	55			
			達成率	%	163.89	91.67	-	-	-
		-	目標	-					
			実績	-					
			達成率	%	-	-	-	-	-
	成果 指標	年間入館者数	目標	%	70,000	70,000	65,000		
			実績		56,953	54,434			
達成率			%	81.36	77.76	-	-	-	
-		目標	-						
		実績	-						
		達成率	%	-	-	-	-	-	
備考									

事務事業名	考古館運営事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	11
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係(尖石縄文考古館)	連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	変果動指要標因分	析	目標値に届かず前年度実績にも及ばなかったが、前年度実績は八ヶ岳JOMONライフフェス期間中無料入館のため入館者数が増加したと考えられる。H28→H29年度の約6000人の増加に対し、H29→H30年度は約3000人の減少で、無料入館の影響が大きいものの、増加傾向である。	入館者数は前年度に比べて減少した。台風の影響が主であるが、8月～10月の3カ月で顕著に前年度割れしている。また庶務担当者の長期離脱による業務過多のため、情報発信件数も目標値に届かなかった。		
価値	総合評価	成果	情報発信は、公式facebookやメールマガジンも活用し、できる限りこまめに実施した。その結果が、無料開館期間のなかったH28年度に対して入館者数の増加傾向につながった。	入館者数は、4月～7月、11月～2月で前年度に対して増加しており、有料入館者数は増加した点は成果と言える。		
		課題	H29年度の実績を踏まえると、無料開館期間が一定期間あれば、多くの入館者数が期待できるが、そのような無料期間を実施せずとも入館者数が伸びるような運営を考える必要がある。	日本遺産構成文化財所蔵機関と連携して、相互に利用者数を高めるような運営も取り入れ、情報発信していく必要もあるかもしれない。		
改革	翌々年度方向性	成果	現状維持	現状維持		
		コスト	現状維持	現状維持		
改善の方向性	改善の方向性	改善の方向性	2018年度(H30)は、縄文が全国的にブームになったことも入館者の確保につながっていると思われるが、来館者アンケートによれば、国宝を目当てに来館したが国宝以外の資料も素晴らしいという意見やボランティアの解説も好評を博していることがうかがえる。また、近年は外国人来館者数も増加傾向にある。これらから、解説ボランティアの充実、外国人来館者に向けた英文キャプション・パネルの増設やデジタルデバイス利用による外国語案内の整備が効果的と思われる。	2018年度の縄文ブームの落ち着きが、夏期の入館者前年度割れにつながった可能性がある。そうした流行に左右されないよう、展示や情報発信をしていく。また、最近要望の増加してきた屋外の解説にも対応できるような体制を整えることで、団体客の利用を促進できると思われる。		
		策び容				
作成担当者	山科 哲	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				

事務事業名	考古館施設管理事務	事業期間	2000 ~	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）	連絡先	76-2270	

政策 番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0000	複数の柱にまたがる事業	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	02	生涯学習推進指針	0101	市民の学びを支える								
		実行計画	04	縄文の里史跡整備・活用基本計画	0401	尖石縄文考古館の充実								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	考古館施設管理費				会計コード	01	款	10	項	05	目	10	事業	03
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	尖石縄文考古館は、特別史跡「尖石石器時代遺跡」の保存・管理、2つの国宝「土偶」をはじめ縄文時代の考古資料の収集・収蔵、調査・研究、展示、及び子どもから大人まで楽しめる体験学習等の教育普及活動をおこなう施設である。当事業は、こうした施設を維持管理するための事業である。この中に隣接する青少年自然の森の施設管理費が含まれている。													
現状と背景 (どうして)	茅野市の「宝」である縄文遺産をまもり、いかし、後世に伝えると共に、縄文遺産を意識したまちづくりを進め、観光や地域の活性化を図る必要がある。													
目的	受益者 (誰のために)	来館者、来場者												
	対象 (直接働きかける)	施設、史跡公園												
L A	意 図 (どんな状態にしたいか)	来館者等が施設及び史跡公園を安全かつ快適に利用できるよう適切に管理する。 縄文文化の価値や魅力を発信し、来館者等の増加を図る。												
	手段・方法 (どうやって)	施設、史跡公園、及び収蔵品等の点検見回りを実施する（職員）。 建物設備管理、環境衛生管理、運営管理、及びプロローグゾーン展示替えを実施する（業者委託）。 考古館周辺、史跡公園、及び青少年自然の森の草刈りを実施する（業者委託）。 考古館と史跡公園で開催するイベント情報を市報、マスコミ等を通じて発信する。												
N C	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
		1	施設内外の巡回点検	実施回数	回	週1回×52週	52							
		2	報道関係者等への情報発信	発信件数	回	月3件×12か月	36							
	3													
変更履歴														
成果指標	成果・効果は何？		指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値								
	1	事故・苦情件数の削減	事故・苦情抑制率	%	1-事故・苦情件数/今年度来館者数	100								
	2	入館者数の増加	年間入館者数	人	計画策定時53,824人	70,000								
変更履歴														

実 施 状 況 （ D O ） 考	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
	事業費等(a)	円	53,700,889	49,901,834	51,444,000			
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	14,512,064	15,366,000	15,749,000			
	一般財源	円	39,188,825	34,535,834	35,695,000			
	活動指標	実施回数	目標	回	52	52	52	
			実績	回	60	48		
		達成率	%	115.38	92.31	-	-	
		発信件数	目標	回	36	60	60	
			実績	回	59	55		
		達成率	%	163.89	91.67	-	-	
-	目標	-						
	実績	-						
達成率	%	-	-	-	-			
成果指標	事故・苦情抑制率	目標	%	100	100	100		
		実績	%	100	100			
	達成率	%	100.00	100.00	-	-		
	年間入館者数	目標	人	70,000	70,000	65,000		
実績		人	56,953	54,434				
達成率	%	81.36	77.76	-	-			

事務事業名	考古館施設管理事務		事業期間	2000	～	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	文化財課	考古館係（尖石縄文考古館）			連絡先	76-2270	

事後評価	項目	2018年度（H30）	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		目標値に届かず、前年度実績にも及ばなかったが、前年度実績はハケ岳JOMONライフフェスティバル期間中無料入館のため入館者数が増加したと考えられる。H28→H29の約6000人増に対し、H29→H30は約3000人減で、無料入館の影響が大きいものの、増加傾向である。	入館者数については、10月の台風の影響及び2月以降の新型コロナウイルスの影響により、前年度より2500人減となった（10月の入館者数がほぼ2500人減である）。施設の点検回数と情報発信については、庶務担当者の長期入院（3か月）により業務量が著しく増加した影響で目標値に届かなかった。		
総合評価	成果	台風の影響のため点検回数が多くなったが、施設の維持管理につながった。情報発信は、フェイスブックやメールマガジンも活用、できる限りこまめに実施した。その結果、無料開館期間のなかったH28年度に対して入館者数増となった。	情報発信は、一部十分でなく苦情をいただく結果も招いたものの、イベントや国宝展示の再開など可能な限りこまめに発信し、8月～10月、3月以外の合計9か月間では前年度同月を上回った。			
	課題	H29年度の実績を踏まえると、無料開館期間が一定期間あれば、多くの入館者数が期待できるが、入館者数増加のため情報発信の工夫、事業の工夫について研究を実施すべきである。	体験型講座の増設や、屋内外の解説対応をできるようにすることで、入館者増につながると思われる。情報発信についても、当館からの発信だけでなく、SNSへの投稿をしてくれそうな年齢層が参加しやすいイベントの実施などで相乗的な効果を狙う必要がある。			
改革	翌々年度方向性	成果 コスト	拡充 拡大	現状維持 現状維持		
	改善の方向性	成果 コスト 方向性 内容 策び容	今後経年劣化にともない、施設の維持管理には同程度のコストが見込まれる。長寿命化が期待できる修繕等により、長期的にはコスト増大にならないようにしていく。館イベント等の広報に、コストがかからず効果的な手法をメインにしていき、低コストながら入館者増につながるようにしていく。	特別収蔵庫の送風機、館内の監視カメラ、照明のLED化等、施設管理の面で、更新すべきものや技術革新により消耗品が確保できないものが出てきている。長寿命化と並行して、更新計画を立てておく必要があると思われる。情報発信についてはより効果的な方法（国立博物館のようなツイッターアカウントの取得とホームページへの埋め込み）、参加者のSNS発信を積極的に促せるような内容のイベントを検討していく。		
作成担当者	山科 哲	山科 哲				
最終評価責任者	両角勝元	五味健志				
最終評価年月日	元. 5. 17	2020年7月3日				